

豈竹越前少掾  
藤原重恭  
竹本采女獨立して豈竹若太夫ご名乗る享保三年正月上野少掾（藤原重勝）を受領し同十六年九月再び越前少掾を受領す明和元年九月十三日歿  
二世若太夫  
初め竹本志摩太夫播磨少掾の門弟にして天文四年初めての出座に『ひらかた盛衰記』の筆引を語けて大當り延享二年島太夫と改名す播磨少掾歿後は此太夫の門下となる寛延元年此太夫と共に東に轉ず寛延三年八月二代目豈竹若太夫となる寶曆十四年越前少掾死去後暫く休座明利三年正月西の芝居にて（座元竹田伊豆太夫竹本筑後掾）竹本島太夫の舊名に還へり五年櫛下となる六年東に轉じ豈竹島太夫となり七年豊竹座再興座元豊竹此太夫豈竹島太夫の看板なり十一月には座元豊竹和歌山越前太夫豈竹島太夫豈竹駒太夫の兩人となる天明元年後は病氣にて出

